

富山大学
人間発達科学部
学部案内
2021



Human Development

「豊かな社会性と人間力」を有する教育人材の養成

人間発達科学部

2005年に、富山県にあった3つの国立大学を統合したとき、教育学部を改組して誕生したのが人間発達科学部です。人間発達科学部は、教育学部で培った学校教員の養成を中心に据えながら、心理、幼児教育、スポーツ、環境、情報といった生涯学習を支援する広い意味での教育人材を育成しています。

本学部を卒業すると、学士（教育学）の学位が授与されます。また、必要な単位を修得することで、幼稚園、特別支援学校、小・中・高等学校の教員免許状のほか、保育士などの各種資格も取得することができます。毎年多くの学生が教育人材として卒業しており、そのうちの7割近くが学校教員となっています。その他の学生は、資格等を活用して官公庁や一般企業に就職したり、専門性を高めるために大学院に進学しています。

人間発達科学部ができてから10年以上経ちましたが、人間発達科学とは一体どういう学問なのか、人間発達科学部では何が学べるのか、という質問をまだ受けることがあります。人間発達科学とは、既存の学問体系とは異なり、人間という複雑な存在を対象とし、発達という時系列的な変化を踏まえながら、多面的・多角的に考えていく学問と捉えることができます。人間は置かれた環境でその発達は大きく左右されるので、教育はとても重要な役割を担います。人間発達科学部は、人間のよりよい発達を支援する教育人材を育成する学部ですから、教育の本質を追究することも重要な目的となります。具体的には高度で専門的な知識を身に付け、教育現場をはじめさまざまな経験を積みながら、教育とは何か、人が学ぶとは何かを研究し、人を教え、支援する技術を身に付けることのできる学部です。

複雑で不断の変化をともし人間の発達に、さまざまな切り口でアプローチするため、本学部には多様な学問領域を専門とする教員が所属しています。人間発達科学部のこうした学際性及び多様な学問領域が連携した学びと研究は、本学部の強みであり、他の学部には無い特色です。

異なる価値観と問題意識を持ち、さまざまな分野での活躍を目指す学生が、お互いの違いを認め合い、一つ屋根の下に集い、切磋琢磨する学部だからこそ、豊かな社会性と人間力が育まれるものと考えています。このような人間発達科学部の取り組みに共感してくれる次代を担う若い人たちを大いに歓迎いたします。



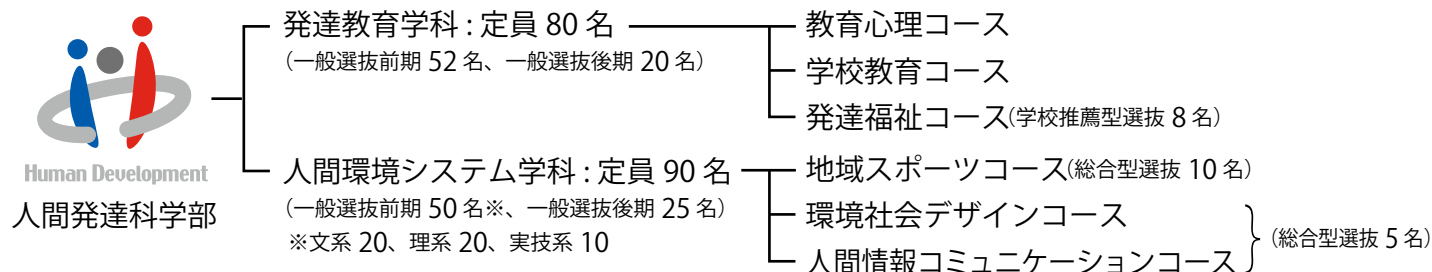
学部長あいさつ

人間発達科学部長

大川 信行

Okawa Nobuyuki

学部の組織と募集人員



<附属施設> 附属人間発達科学研究実践総合センター、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校

学校推薦型選抜及び総合型選抜はコースごとに、前・後期の一般選抜は学科ごとに実施します。
人間環境システム学科前期入試（文系・理系・実技系）は高校までの勉学の成果を入試時に生かしてもらうためのものです。
コース分けは、入学後、1年次前期末に実施します。

人間発達科学部で取得可能な教員免許状（2021年度入学生）

- 幼稚園教諭 1 種
- 小学校教諭 1 種
- 特別支援学校教諭 1 種
(小学校教諭免許取得を前提条件として取得可能)
- 中学校教諭 1 種 (数学・理科・社会・保健体育・英語)
- 高等学校教諭 1 種
(数学・理科・地歴・公民・保健体育・英語)

人間発達科学部で取得可能な資格

保育士（発達教育学科発達福祉コース）、
学芸員（他学部の授業の履修が必要）等

学科によって取得できる教員免許状は異なりますが、小学校教諭1種・特別支援学校教諭1種・幼稚園教諭1種・中学校教諭1種（保健体育）・高等学校教諭1種（保健体育）の教員免許状を取得できるのは、富山大学では人間発達科学部のみです。



附属幼稚園における教育実習

Reframing!

リフレーミング・プロジェクト

Project

現代社会で人を育てる為に必要な「8つの能力」

人間発達科学部では様々な実践を通じ現代に必要な8つの能力、「企画力・創造力・調整力・実践力・洞察力・批判力・判断力・コミュニケーション力」の向上をめざしています。

人を育てる能力の高い人材として社会に出られるよう、大学生としての学び方の基礎から実践的な教育プログラムまで、様々なカリキュラムやプロジェクトでバックアップします。

豊かな人材を育てるために

教育実習

教育実習は附属学校園だけではなく、協力学校にもお願いし、学生を受け入れる体制を整えていただいています。大学では学べない発問の仕方、板書の仕方、児童との接し方など、実際に教育現場に立ったときに役立つ内容について、学生達は丁寧な指導を受けられます。

このようにコースに所属する学生が教師として求められる資質や能力を身につけるための環境と体制について、常に心を配っています。



附属中学校における教育実習

附属小学校における教育実習

インターンシップ



人間発達科学部のインターンシップは、「インストラクショナルデザイン」「ボランティア体験」との組み合わせの中から必要な単位数を修得しなければならない科目（選択必修）です。

就労体験の一つであり、関心のある企業等で10日間を目安に実習・研修等を受けます。富山県インターンシップ推進協議会が管理している受入れ先企業等から選択し、3年生の夏季休業期間中に履修する事を原則とします。

ただし、単に実習・研修を受けるだけではなく、社会人としてのマナー等に関するセミナーを受講したり、面接を受けたりする事前の準備があります。事後指導を含め、これらを一体のものとして取り組む事で効果を上げています。

インストラクショナルデザイン



発達教育学科、人間環境システム学科の両学科にまたがり、問題解決能力やコミュニケーション能力などの現代的な教育課題の解決に必要な能力を育成するために、学部共通科目として開講されています。

インストラクショナルデザインの考え方に関する基礎知識や支援ツールを活用した協調協働作業の方法を学んだ上で、学校教育から社会教育までの幅広い分野で活躍している先人の貴重な教育実践を聴いて、「学びを考え、教育をデザインする」力を育てようと企画されました。

専門的知識はもとより、プロジェクト型学習として、昨今求められている課題の探求力や協調して問題解決に当たる協調力、批判力、マネジメント能力などを育成しようとするものです。

基礎ゼミナール

1年次の前学期、週に1回基礎ゼミナールを履修し、大学・学部・学科・コース内容を理解してコース選択に役立てるとともに、大学生として必要な基礎スキルを身につけることができますようにします。

●発達教育学科、講義の内容(例)

1回	オリエンテーション 大学での学びとは 学科の説明	9回	コースの選択 各コースごとのオリエンテーション
2回	①学校教育コースのねらい、特色、 進路、大学での学び方、教員とい う職業の魅力 ②教育心理コースの概要 ③発達福祉コースの紹介	10回	教育心理コース…心理学入門：様々 な研究の概観と研究法について 学校教育コース…教員として知っ ておくべき表記法(平仮名・片仮名・ ローマ字) 発達福祉コース…発達福祉に関する 課題の設定
3回	①教師とは何か…教師とはどのよう な存在か、よい教師とは ②心理学の実例(模擬授業) ③発達福祉コースの紹介	11回	教育心理コース…心理教育的アプ ローチの実際と対人関係ワーク 学校教育コース…教員として知っ ておくべき表記法(仮名遣い・送り仮名) 発達福祉コース…設定した課題につ いての自己学修の発表と研究倫理と 引用の方法
4回	①発達福祉コースの紹介 ②学校教育コースのねらい、特色、 進路、大学での学び方、教員とい う職業の魅力 ③教育心理学コースの概要説明(授 業、履修過程、教員紹介)、心理学 の実験体験(協記憶に関する実験 のデモンストレーション)	12回	教育心理コース…科学としての心理 学を解説・レポートの書き方の説明 学校教育コース…教員として知っ ておくべき表記法(筆順) 発達福祉コース…設定した課題につ いての自己学修の発表と整理
5回	①発達福祉コースの紹介 ②教師とは何か…教師とはどのよう な存在か、よい教師とは ③心理学の各分野の紹介(学習・社 会・発達・臨床・教育)、心理学コ ースの教員紹介	13回	教育心理コース…実験実習「要求水 準」を実施 学校教育コース…レポートの書き方 (レポートとは何か、書く上での注意点) 発達福祉コース…設定した課題につ いての自己学修の整理に基づく議論
6回	①図書館ガイド…図書館の活用、本 と雑誌の検索、情報の活用など ②発達福祉コースの紹介 ③学校教育コースのねらい、特色、 進路、大学での学び方、教員とい う職業の魅力	14回	教育心理コース…実験結果のまとめ 方・知覚と認知について解説 学校教育コース…テキストの読解 (正確に読む、要約・分析する) 発達福祉コース…設定した課題につ いての自己学修の深化
7回	①コース(教育心理コース)の紹介 ②図書館ガイド…図書館の活用、本 と雑誌の検索、情報の活用など ③教師とは何か…教師とはどのよう な存在か、よい教師とは	15回	教育心理コース…実験実習「表情認知」 学校教育コース…大学での今後の 学びを展望する(批判的に考えること、 将来を見据えた学習計画) 発達福祉コース…設定した課題につ いての発表会への運営と発表
8回	①専攻を生かした進路の選択につ いて ②発達福祉コースの紹介 ③図書館ガイド…図書館の活用、本 と雑誌の検索、情報の活用など		

●人間環境システム学科、講義の内容(例)

1回	●自分を知り、仲間を知る 「仲間づくりゲーム」	8回	人間環境システム学科 コース紹介 (概要、特色、進路) 希望コース仮調査
2回	①情報を集める 「図書館編」 ②ノートを通した 主体的情報整理 ③ネットワークリテラシー	9回	10年後の自分、 10年後の世界を考える
3回	①ノートを通した 主体的情報整理 ②ネットワークリテラシー ③情報を集める 「図書館編」	10回	学校教員の 仕事について
4回	①ネットワークリテラシー ②情報を集める 「図書館編」 ③ノートを通した 主体的情報整理	11回	所属コース選択
5回	データを基に考える ＜統計入門＞	12回	表現する、伝える 「ポスターセッションの説明」
6回	テキストで自分を主張する ＜レポート・論文の書き方 まとめ方＞	13回	学生生活 (期末試験、生活全般) 表現する、伝える 「ポスター作成」
7回	自分を知り、仲間を知る 「こころの科学」	14回	表現する、伝える 「ポスターセッション①」
		15回	表現する、伝える 「ポスターセッション②」

特別研究



ゼミ室における自主的な学修(学校教育コース・図画工作科ゼミ)



卒論中間発表会(学校教育コース)



卒論発表会(学校教育コース)

4年間のプロジェクトの総決算となるのが特別研究です。

2年次の後期に、それまで学んで来た内容を元に自分が希望する研究内容を決定し、3年次になるとコースごとに専門の担当教員の主催するゼミナールに所属して自主的な学修を始めます。このゼミナールでは、問題の発見、解決方法の選択、調査や実験などの活動、考察や発表のプロセスを1年間かけて実践的に学びます。そこでは、専門研究に関係のある論文を読んだり、実際に教科ごとの教材研究を行って毎週発表したり、学会に参加してより最新の研究

内容について、教員の指導の下、少人数でじっくり学び合います。

そして、身につけた技法や問題意識をベースに、自分で選んだ研究テーマについて中間発表会で発表し、他のゼミナールの教員や同学年後輩の学生たちからいろいろな質問を受けて回答しながら、指摘された課題に関する問題点を修正していきます。そして、4年次にその成果を卒業論文にまとめて提出し、その後、それぞれのコースで卒業論文を元に作成したプレゼンテーションで発表会を行います。

富山県教育委員会との協力関係で実施される特色ある事業

●学びのアシスト/スタディ・メイトジュニア (学校インターンシップ)

「学校インターンシップ」は、講義と小学校でのフィールドワークをあわせもった、創造的な授業です。4月から6月の大学での講義を通して学校教育や子どもについての基礎的知識を得たのち、6月下旬から翌年の2月下旬まで小学校でフィールドワーク（実習）を行います。



この実習では、2つのコースに分かれます。Aコースは「学びのアシスト」、Bコースは「スタディ・メイトジュニア」と呼ばれ、どちらも毎週一日程度、学校現場に身を置き、子どもたちの学びや育ちを約8ヶ月間、支援します。

Aコース「学びのアシスト」は、アシスタント・ティーチャーとして学級担任の補助をしながら、教師は授業や学級経営をどのように進めているのか、個々の子どもと学級をどのように育んでいるのかについて学びます。

Bコース「スタディ・メイトジュニア」は、学習や友達とのかかわり方につまづきを抱えている子どもをサポートしながら、子どもの視点にたった適切な支援とはどのようなものかについて学びます。

両コースともに、富山県（市町村）教育委員会と富山大学人間発達科学部との緊密な連携、協力のもと、配属された富山県内の小学校で教師の仕事を継続的に体験します。

数週間の教育実習とは異なり、数ヶ月という長期に渡って教師の学級づくりを学び、子どもたちの成長のプロセスを身近に感じ支援できることが、学校インターンシップの最大のメリットです。子どもたちと積極的にかかわり合いながら、教師の仕事の素晴らしさを実感してほしいと願っています。



学びのアシストに参加して

●学びのアシストへ初めて行ったときは、何をすればいいのかわからず、教室でただ様子を見ていたときがありました。そんな時、子どもたちが「一緒に遊ぼう」と声をかけてくれて、子どもとの距離が縮まったように感じ、嬉しかったです。最終日には、子どもたちがお別れ会を開いてくれて、「さみしい」と言って泣く子もいました。子どもから、ここまでの信頼を得られるのは、教師という仕事の魅力だと思いました。

学びのアシストでは、嬉しかったこともあれば、苦しかったこともありました。泣いている子がいて、どうしていいかわからなかったときに、先生は子どもの話をしっかり聞いて対応していました。自分ももう少し上手に対応できるようになりたいと思いました。

（平成30年度1年・笹原 茜）



●私は毎週、学びのアシストに行くことがとても楽しみでした。元気いっぱいな子どもたちとたくさん遊び、たくさん学ぶことができる学びのアシストの日は、いつも充実していました。先生方は一生懸命に子どもたちと向き合っておられて、何度も「自分もあんな先生になりたい!」と思うことがありました。この実習で、ただ「教師になりたい」という気持ちだけではなく「よい教師になるために学びたい!」という気持ちが強くなりました。この実習で学んだことを今後に生かし、立派な教師になります。本当にありがとうございました。

（平成30年度1年・廉 千怜）

●約半年間、学びのアシストとして小学校に行き、実際に教室の雰囲気や子どもたちとの関わり方、先生としての振る舞い方など、大学の講義では学ぶことのできない多くのことを学びました。このような貴重な体験ができたのは、お世話になった小学校の先生方や子どもたちをはじめ、この事業にご協力いただいた全ての方々のおかげです。本当にありがとうございました。そして、この貴重な経験を生かしていけるようにこれからも努力していきたいと思っています。

（平成30年度1年・山岸 亜未）

スタディ・メイトジュニアに参加して

●私は子どもたちとの関わりの中から、一人ひとりの個性に沿った指導の大切さを学びました。漢字の学習に関して、Aさんはスラスラと早く進めていくのに対し、B君はゆっくり進めていくという、全く正反対の学習を行う2人の子どもの指導補助を同時に行ったことがありました。Aさんはスラスラ進むが筆圧が薄くなってしまったり線からはみ出してしまうことがあったため、「ゆっくり」「丁寧に」を合言葉にして学習していくと、きれいになぞることができました。B君は丁寧になぞれてはいるが集中力が続かず次に進むことが難しかったため、漢字の読み方を見開きのページから探す際、B君が好きな探し絵本のように「どこにあるかな?」と問いかけると、B君は楽しみながら漢字を探し、そのまま漢字の学習に取り組むことができました。このように、一人ひとり異なる子どもの個性に沿って指導を行うことで、子どもの「できた!」を引き出すことができるということがわかりました。

また、子どものこのような学び方の特徴は、回数を重ねて子どもを理解するにつれて分かってくるものであり、子どもとじっくり関わることの大切さも同時に学ぶことができました。

（平成30年度1年・和田 京花）

●観察実験アシスタント

授業やゼミの空き時間を活用し、毎週1回程度通勤する「長期のインターンシップ（有給）」で、小学校・中学校理科の実験・観察の準備・片付け、予備実験、授業補助、理科室や理科準備室等の環境整備をするのがその仕事です。いずれも、小・中学校の理科授業を行うための重要な仕事で、これらを経験することで、学生時代に理科授業づくりについての現場感覚を磨いています。

観察実験アシスタントが理科の授業に必要な基本的な知識や技能を身に付けるために、6月と9月に富山県総合教育センターで行われるのが実技研修会です。6月は初めて観察実験アシスタントになった学生が対象で、9月は全員が受講対象で、物理、化学、生物、地学の4分野に分かれて研修を受けます。

研修内容は、微生物や気孔の顕微鏡観察や水溶液のろ過および蒸発乾固といった小・中学校理科の指導内容に直結する内容や、破損した導線の修理に役立つはんだ付けの技能習得など多岐にわたります。これらの研修内容は、観察実験アシスタントとしての仕事のみならず、将来教職に就いたときにも大いに役立つものです。



観察実験アシスタントに参加して



●私は、観察実験アシスタントでは、主に理科の授業準備、活動補助、後片付け、理科準備室の整理整頓を行っていました。

最初は実験用具の置き場所や使い方が分からず、準備に時間がかかってしまい、戸惑うことが多くありました。しかし、配置校の先生方はわからないことを尋ねると何でも丁寧に、優しく教えてくださり、教科書をコピーしたものをしながら実験の流れと一緒に確認したり、実際に理科準備室に行って実験用具の配置と用途の説明をしたりと、様々な支援をしてくださいました。そのおかげで、何度か通っている内にだんだん作業が早くなり、自分から、実験を安全に行うために工夫をしたり、子どもが実験をする上で使いやすいように工夫をしたりと、楽しさややりがいを感じるようになりました。また、実際の教育現場に携わることで、先生方の授業づくりや、子どもたちのリアルな反応が見られ、多くのことを学ぶことができました。特に、授業を進めていく上で子どもや先生方と学習内容について考えたり、そのためには実験をどうしたら良いかを考えたりしたことが、将来教員を目指す私にとって、実践的な力が身につく、貴重な経験をすることができました。

また、毎週学校へ行くと子どもたちや先生方が笑顔で歓迎してくれます。朝教室に行くと、子どもは「今日はどんな実験をするの?」と楽しみにした様子で話しかけてくれたり、仕事を終えると、先生方は「いつもありがとう。とても助かっています!」との声かけをさせていただいたり、とてもやりがいを感じる事が出来ました。

配置校で少しでも多くのサポートができるように、今年も学ぶ姿勢を持ち、楽しく活動していきたいと思っています。

(学校教育コース4年 立野健翔)

●地域教材研究(富山学)

本講義の目的は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、(i)教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに、(ii)教材開発などの実践的指導力の向上を図ることにあります。この講義においては、富山県教育委員会から派遣された各教育事務所等の指導主事の方を講師として、15回の講義の内11回分を担当していただいています。



第6回 富山学
「立山の歴史と文化ー立山曼荼羅を通してー」



第11回 富山学
「歌い継がれるこきりこの魅力 再発見」



第12回 富山学
「富山の自然と体験型教材」

●令和元年度に行われた講義の内容

- 第1回 「富山学」とは何か
- 第2回 地域教材研究とは何か
- 第3回 教材研究の楽しみー「米騒動」の授業づくりを通してー
- 第4回 過去から未来へつなぐ 南砺の産業
- 第5回 富山の美術鑑賞学ー地域の美術を授業に生かすー
- 第6回 立山の歴史と文化ー立山曼荼羅を通してー
- 第7回 高岡の歴史・文化に学ぶー地域の資源を生かしてー
- 第8回 英語翻訳の魅力ー富山のこぼれを通してー
- 第9回 現代社会における伝統文化の継承
ー越中城端の曳山・庵唄を中心にー
- 第10回 奥の細道 芭蕉が見た「とやま」ー思いを五・七・五にー
- 第11回 歌い継がれるこきりこの魅力 再発見
- 第12回 富山の自然と体験型教材
- 第13回 あの日 あの時 ふるさとごはんーとやまの食文化ー
- 第14回 地域の自然素材の教材化
ー「流れる水のはたらき」の授業からー
- 第15回 「富山学」まとめ

受講学生の感想

●自分たちが住んでいる地域だからこそ、経験できることをたくさん経験し、目で見て触れて学ぶことができれば、身近なので親しみやすく自分たちが住んでいる地域のよい所も悪いところも知ることができる。

- 私は、富山県出身でこの講義で取り上げられた教材は、身近で親しみがあるものが多かった。そのためもあったか、毎週楽しみながら積極的に講義に参加することができた。
- 今回、この講義内では実際に自分たちが教材に関連することを体験したり、実践する機会が多かったりしたので、このような授業の仕方を学ぶことができてよい経験になった。
- 子どもたちにいかに面白さや魅力を伝え、より地域について学んでもらうために、子どもが主体に活動できるように教師が授業をすることが大切だと思った。
- 地域に一つある公民館や歴史資料館といった公共の教育施設と連携して授業をより充実させたものを工夫する必要性を感じた。

国際交流の機会提供

●部局間交流協定締結校について

本学部は、海外の大学の学部と部局間交流協定を結んで本学部の学生が短期で訪問研修を行ったり、留学生の受け入れを行ったりしています。

ウダヤナ大学文学文化学部／ピナ・ヌサンタラ大学人文学部（インドネシア）、コンケン大学教育学部（タイ）、ライデン大学人文学部（オランダ）、マドリッド自治大学教育学部（スペイン）、ウラジオストク／ヴァリスキー海軍国立大学（ロシア）。

●マドリッド自治大学等訪問研修（スペイン・マドリッド）

平成22年度より毎年、図画工作科教育論を受講した学生を中心に参加希望者を募って、マドリッド自治大学等訪問研修を行っています。

昨年度は、本学部から5名の学生が参加し、教育学部の3年次学生と共に美術の授業を受講したり、折り紙のワークショップを開催して、日本の伝統文化に触れてもらったりしました。また、現地の公立小学校を訪問して、全部で4つの学年の児童を対象に、図画工作科のワークショップを英語を使って行いました。この他にも現地の日本人学校を訪問したり、プラド美術館などの世界的な美術館を見学し、セゴビアアトレドなどの世界遺産を訪れて充実した訪問研修になりました。



●参加学生の感想（平成30年度学校教育コース3年・杉本 愛華）

まず、たくさんの材料を準備していただいたアルデバラン学校に感謝しなければならないと感じている。自分自身を持っていた材料だけでは到底足りなかった。教師になった時には、子どもたちが自由に思ったように並べられるように、できるだけたくさんの材料を用意しなければならないと感じた。また、前々で実際にやっている様子を子どもたちに見せることは、子どもたちが活動にすっと移ることができるためにも、重要な手立てだなというふう感じた。

授業に関しては、一年生ということもあって、「見てみて!」「写真撮って!」などとアピールしてくる子どもたちがたくさんいて、子どもの姿は国を超えても変わらないなとまず思った。途中で鑑賞の時間を設けることで、子どもたちが他の活動の良さを取り入れている様子も見受けられたし、最後の鑑賞の時には、自分なりの言葉で、他の人の活動の良さを伝えている姿が見受けられたので、やはり表現活動の中に、鑑賞は必ず取り入れるべきだなというふう感じた。



●コンケン大学等訪問研修（タイ・バンコク等）

富山大学と部局間交流の関係にあるタイ北部のコンケン大学に、発達福祉コースの特別支援教育や幼児教育を学ぶ学生を中心に約2年に1度、研修旅行をしています。大学生同士の文化交流のほか、大学附属の幼稚園、小学校、中学校、自閉症センターを訪問し、タイの保育・教育に直に触れたり、タイの子どもたちに日本の伝統遊びを教えたりしています。コンケンだけでなく、経由地のバンコクにも滞在し、世界遺産である王宮やアユタヤ遺跡を巡ったり、トムヤンクンやマンゴーなどのタイの食文化に触れたり、大学生の時にしかできない経験ができる充実した研修旅行です。社会人になる上で世界の中の日本事情や日本の教育を大局的に見ることで、とても貴重な機会です。



●参加学生の感想（平成29年度発達福祉コース2年・川合美希）

私たちは八月に、タイ王国に六日間の短期研修に行ってきました。前半の三日間はコンケンで研修を行いました。コンケン大学の日本語学部の学生とお互いの自国の伝統的なお遊びについて紹介しあったり地域のナイトマーケットを散策したりしました。附属幼稚園と自閉症センターではちぎり絵を、附属小学校では福笑いとフルーツバスケットを、附属中高一貫校では習字を紹介し、タイの子どもたちと楽しみながら日本の文化を体験する時間を設けました。

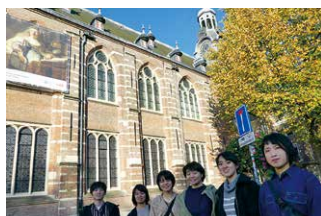
外国語教育が盛んとは聞いていましたが、日本語学部の学生はもちろん、附属学校の子供たちは日本語がとても上手で、日本語での会話を楽しむことができました。また、漫画やアニメなどを通して、日本の文化がタイに伝わっていることを交流する中で実感しました。

後半の三日間はタイ文化理解の一貫として、バンコク市街を散策したり水上マーケットに行ったりゾウ乗り体験をしたりする中で、物価や建造物、料理の味付けなど様々な面から文化の違いを感じることができました。



●ライデン大学（オランダ・ライデン）との交流

人間発達科学部では、2016年にオランダ・ライデン大学人文学部と学部間交流協定を締結しました。ライデン大学は世界ではじめて「日本学科」を設けたことでも知られ、その研究力は世界トップクラスです。協定に基づき、2017年度から毎年15名程度の学生が富山を訪れ、富山大学で日本語と日本文化、そして富山について学んでいます。人間発達科学部の学生にも、年間最大5名まで正規留学の途が開かれています。



2019年10月には、学校教育・環境社会デザイン・地域スポーツコースの学生など6名の学生と学部教員3名が学科やコースの枠を超えたグループを組み、ライデン大学を訪問しました。訪問の際には、ライデン大学日本学科の学生とのジョイント・セッションを実施し、互いの大学や地域、国の様相や文化などについて情報交換しながら交流を図りました。さらに、ライデン大学生のコーディネイトにより小学校を訪問し、授業の見学や教員・児童との意見交換も実現しました。その他にも、ライデンやアムステルダム、ハーグ、コトレヒトといった歴史と伝統のある都市を中心に、芸術・文化・スポーツ等に直に触れる機会を得ました。現地では、各コースの学びを深めつつ、帰国後も学科・コースを横断して多角的な視野で意見交換を行うことができました。今後、年1回程度こうした研修を続けていく予定です。

●参加学生の感想（令和元年度学校教育コース3年・小林知可）

ライデン研修は、私の価値観を揺るがす貴重な経験となりました。特に印象的だったアンネフランクハウスやアンネが実際に移送されたヴェステルボルク収容所訪問では、アンネがどんな場所で、どんな思いで日記を書き続けたのかを知り、考えたことで、当時の人々の思いや痛みを語り継ぐ大切さを感じました。また、現地小学校訪問では、日本とは大きく異なる学校文化が息づいていることに驚き、国内外の教育に目を向け、よりよい学校や教師のあり方を吟味し続ける重要性を学びました。今後は、研修を通して得たそれらの多くの学びを子どもたちのために活かしながら、共に学び続けることができる教師になりたいと思っています。

●海外語学研修

アメリカ合衆国における大学間交流締結校であるマーレイ州立大学、ハワイ大学マウイカレッジ、チャールストンカレッジには、本学部からも毎年多くの学生が留学（短期・長期）を行い、語学力の向上や異文化に触れる体験を通して見聞を深めています。



●参加学生の感想（令和元年度地域スポーツコース2年・河口尚希）

私は今回、マーレイ州立大学短期語学研修に参加しました。約1か月の間、日常生活や授業がほとんど英語である環境に身を置き、多国籍なクラスの中で授業を受けたり、様々なアクティビティに参加したりといった充実した日々を送ることができました。授業はすべてが英語で行われ、それに加えて様々な国の人の意見を聞くことができるので英語の上達にもとても良い授業でしたが、それだけではなく考え方を学ぶことも多い授業でした。また、授業だけではなく授業以外の放課後や休日に同年代の学生と関わることも多く、そのような場面においても英語を使い、上達させるという機会が多かったように思います。様々な現地の学生や先生と関わる中で英語の面においても人間性の面においても大きく進歩できた1か月間であったと感じています。

多くの多国籍の友人も作ることができ、今でも連絡を取っています。日本では経験することのできないとても充実した1か月間を送ることができた留学であったと思います。



4年 榎本 花菜恵さん



4年 山田 百花さん

人の心理を科学的に研究し 実践的な心理学的支援に取り組む

こんな人にお勧めします▼

- ☐心理学を活かした教師になりたい人
- ☐心の仕組みを知りたい人

コースの特徴

心理学の様々な領域を科学的に研究し、実践に活かす研究と教育を行います。人を対象とした実践に活かすには、人の学習や知覚・認知や感情の仕組み、対人関係や学習の基盤となる認知発達の機序を正しく理解する必要があります。本コースでは、人の心の仕組みに関する基礎的な知識、実験や調査などの科学的な心理学研究の訓練を基盤としながら、それらを教育や臨床などに活かしていきます。そのことで、心理学的な知見を備えた教師として学校現場で活躍できる人を養成しています。

先輩からひとこと

「心理学は対象がとても幅広く、そして深い魅力的な学問です。

心理学は大きく2つ、基礎心理学と応用心理学に分けることができます。基礎心理学は人間の心の仕組みについての一般法則、応用心理学では基礎心理学の知識をどう役立てるかといった内容です。人と関わる上で応用心理学の知識はかなり有益ですし、基礎心理学で学ぶ、知覚・認知分野の色や形が与える印象等の知識は物作りにも役立ちます。そして、心理学を学んでいく上では、座学はもちろんですが、実験を行ったりデータの分析を行ったりレポートを作成したりと、科学的な側面も大きいのです。データの扱い方を通してパソコンの使い方や、情報を読み解いていく力も身につきます。教育心理コースで身につく知識や能力は、心理に関わった仕事に就きたい人はもちろん、どんな人にも社会に出て役立つものだと思います。

私は、発達障害のある幼児・児童やその周りの保護者、教師への支援を行いたいと考え、このコースに進学しました。現在は研究室で卒業研究に向け、発達心理学や臨床心理学について深く学んでいます。前述の通り心理学はとても幅広い学問なので、同じコースに所属していても、知覚や認知、精神疾患や性的マイノリティ等、興味を持っている分野・対象はさまざまです。

最後に、この学部では子どもに関する学問を中心に学ぶことが出来ますが、一口に「子どもと関わる」と言っても、

心理学・教育・保育・福祉等のすべてにおいて、関わる子どもの年齢や特徴、そして各立場としての子どもの見方は大きく異なります。実際にどのように異なるのかは自分で調べていただきたいですが、ぜひ、一度自分がどのように子どもたちに向き合いたいのかを考えてみてください。その上で、教育心理コースで学んでいく、という選択を行って欲しいと思います。」

(4年 榎本 花菜恵さん)

「教育心理コースでは、心理学の様々な知識を学ぶことに加え、実際に心理実験などをするため、心理学について体験的に学ぶことができます。1・2年生では教育心理学や心理学研究法など、基礎的な分野を学び、3・4年生では研究室に配属され、自分が興味を持ったことについて研究していきます。私の所属する研究室では、1つのテーマについて、みんなで議論しながら考えを深めています。特に、学校における課題については、教師の視点だけでなく、子どもや保護者の視点から考えることも大切にしています。私は小学生を対象とした卒業研究を計画しています。自分の研究したいことに集中できる環境が整っており、先生や友人と毎日充実した生活を送っています。

また、私は教員を目指しており、心理学と並行して教師になるための勉強をしています。学校では子どもの気持ちと向き合う場面が多く、心理学を学ぶことは教師になってから必ず役立つと考えています。教育心理コースの講義の中には、子どもの各発達段階における特徴や学習のプロセス等、心理学という視点から子どもの教育について考えることができる講義がたくさんあります。その中でも特に印象に残っている講義は、臨床心理実習です。この講義では心のサポーターとして中学校に通い、不登校の子どもたちと関わる機会を与えていただきました。私はいろんな悩みを抱えた子どもたちと関わることを通して、不登校に対する考え方が変わりました。学級の中にはいろんな子どもたちがいるため、教育実習とは違った視点で子どもと関わることができることはこの講義の魅力であると考えます。

心理学に興味がある人だけではなく、子どもの気持ちに寄り添うことのできる教員になりたい人にとっては有意義な大学生活を送ることができるコースだと思います。」

(4年 山田 百花さん)

取得可能な免許・資格

教育心理コースでは小学校教諭1種免許を取得できます。また、それを条件として特別支援学校教諭1種免許と幼稚園教諭1種免許の取得が可能です。

就職状況

例年、教師として学校現場に出ることを目指す学生が一定数います。近年、子どもをめぐる状況は複雑化しており、生徒と上手に関わったり、よりよい授業を行うためにも、心理学的な知識が求められます。また、スクールカウンセラーなど、心理の専門家とも連携できる力が求められています。

他には、公務員での心理職、児童相談所の心理判定員や家庭裁判所調査官のような心理の専門職を目指す学生もいます。また、実践や研究を深めるため、大学院へ進学する学生もいます。

カリキュラムの特徴

教員免許を取得するカリキュラムを備えています。そのうえで、「教育心理学」「教育相談」など、教育現場で子どもの心理的支援を行うために必要な知識を学べる授業、「心理学研究法」「心理学実験法」など、心理学研究を実施していくために必要な知識を学べる授業、「臨床心理実習」など、実際の教育相談活動の体験を行う授業などを設定しています。

教員一覧と専門分野

- 石津 憲一郎(カウンセリング心理学・学校心理学)
- 姜 信善(発達心理学)
- 近藤 龍彰(発達心理学・臨床心理学)
- 佐藤 徳(社会心理学・実験心理学)



4年 前馬 悠聖さん



4年 稲垣 咲良さん

子どもたちを理解し 学習意欲を高める指導法を学ぶ

こんな人にお勧めします ▼

□小学校の先生をめざす人

コースの特徴

学校教育コースでは小学校の教員を養成しています。子どもたちを理解し、共感する能力を身につけ、学習意欲を高める指導法を実践的に学びます。教員になるには教員免許状が必要です。そのため、学校教育コースでは教員免許取得条件となる科目を系統的に用意しており、学生は1年次から4年次まで順次修得していきます。すべての科目を修得すると、卒業時に小学校教諭1種免許状が取得できます。

また、小学校教員免許状と合わせて、特別支援学校、幼稚園の免許状を取得することも可能です。

先輩からひとこと

「学校教育コースでは、主に小学校の教師になることを志し、意欲溢れる学生が、子どもの言動への理解を深めたり専門的な知識や指導方法を学び合ったりしています。経験豊富な先生方が、学校教育への情熱をもって丁寧に分かりやすい講義を開いてくださるため、教育実習や学校現場での実践力を楽しんで身に付けることができます。小学校での教育実習や学校参観を通じて、子どもに接する機会が多いことも、学校教育コースならではの魅力です。楽しく学びある授業づくり、子どもとの関わり方や苦手意識に寄り添った支援、教師としての心構えを学びます。

学校インターンシップという授業では、1年次で小学校に通年で赴き、現役の先生方の授業や子どもとの関わり方を直接学ぶことができます。学習の補助を行ったり、子どもと休み時間に遊んだり、一緒に給食を食べたりするなど非常に貴重な経験ができました。この先生や子どもとの出会いが、夢を後押ししてくれるかけがえのない経験となっています。

また各教科教育論では、国語や社会など主要教科に加え、図画工作や音楽など実技教科の専門的な指導方法を学べるため、教えることのやりがいや分かることの楽しさを実感できています。同じ目標をもつ意欲的な仲間と、模擬授業を行ったりICTの活用方法を考えたりし、学びや成長を認め合い支え合う柔らかな雰囲気もあるため、安心して積極的に学びを深めることができます。

子どもや人と関わるのが好きな人や教師への憧れを抱いている人は、ぜひ学校教育コースで人間性を高め、有意義な大学生活を送ってください。」

(4年 前馬 悠聖さん)

「学校教育コースは、教師として専門的な技術を学ぶことができる様々なカリキュラムが組まれています。主に小学校の先生を目指す学生のために、主要教科だけではなく音楽や図工、体育、生活などの授業が充実しています。授業では実際に教師になった際に必要となる教材研究の方法や技術面の学びがあります。他にも教育心理学や教育法規など、多様な分野を専門の先生方が教えてくださり、幅広い知識が身につきます。私が特に教員を目指す上でこのコースの強みだと思うことは、実際の学校での経験がたくさんできることです。1年生から1年間を通して、週1日以上学校現場で担任の先生の補助をしたり、授業参観をしたりする機会があります。授業を実際に見せていただくことで、担任の先生の子どもたちとの関わり方や授業作りの工夫、先生としての資質などを学ぶことができました。そして、その経験を2、3年で行う教育実習で活かすことができます。学校現場で1ヶ月間子どもたちとより近くで触れ合ったり、授業作りを自分で担当の現場の先生の助言をいただきながら行ったり、教師として子どもたちと一緒に成長することができました。私は教育実習で子どもたちと関わることの楽しさや先生のやりがいを改めて感じることができました。大学での授業はもちろん、そこで培った知識を活かすことができる教育現場での経験が多いことがこの学校教育コースの強みです。また、同じ学校教育コースの学生は同じ志を持っているので、支え合いながら学び合うことができます。ぜひ同じ志をもつ仲間に出会うことができるこの学校教育コースで充実した日々を送ってください。」

(4年 稲垣 咲良さん)

取得可能な免許・資格

学校教育コースでは、小学校教諭1種の免許が取得できます。また、この免許取得を条件として、特別支援学校教諭1種、幼稚園教諭1種の各免許の取得が可能です。

就職状況

学校教育コースという性格上、学生の就職先は教育・学習支援関係が中心です。最も希望者の多い教員になるには、都道府県で実施する教員採用試験を受け、合格する必要があります。なお、教員採用試験の日時や方法は、都道府県でも公立・私立でも異なります。そのため、年間を通じて「教員採用セミナー」を開催し、採用試験の情報提供や受験指導（志願票の書き方、模擬面接、実技など）を行っています。

カリキュラムの特徴

教員養成を目的としたカリキュラムです。1年次は発達科学概論と基礎ゼミナール、2、3年次は心理学と教育学関係の科目に加え、各教科の講義と実習、各教科の指導法を学びます。2年次から教育実習も始まります。3、4年次はゼミナール単位で専門的指導を受け、4年次に特別研究として卒業論文を作成します。子どもとのふれあい体験、学校インターンシップ（学びのアシスト）など実践的なプログラムも組まれています。

教員一覧と専門分野

石井 哲夫	(音楽・ピアノ)
磯崎 尚子	(家庭科教育学)
岡崎 誠司	(社会科教育学・総合学習教育論)
岸本 忠之	(数学教育学)
児島 博紀	(教育哲学・道徳教育論)
笹田 茂樹	(教育行政学・学校評価・教員評価)
隅 敦	(美術科教育学・図画工作科教育論)
多賀 秀紀	(音楽科教育学・管楽器)
武田 裕司	(国語科教育学)
林 誠一	(教職と教育)
増田 美奈	(教育学・授業研究)



4年 尾田 真哉さん／特別支援



4年 寺尾 美穂さん／幼児教育

生涯発達を視野に入れ 人々の QOL を高める方法を考える

こんな人にお勧めします ▼

- ☐ 子どもが好きでいっぱいかわってみたい人
- ☐ 保育の資格を取りたい人
- ☐ 障がいのある人のサポートをする仕事につきたい人
- ☐ 幼稚園・小学校や特別支援学校の先生になりたい人

コースの特徴

乳・幼児期から成人期までの生涯発達を視野に入れ、人々のクオリティー・オブ・ライフをいかにして高めていくことができるかを考えていくコースです。授業だけでなく、体験や実習を通して様々な人と接する機会が多いのもコースの特徴です。子どもたちを理解し、共感する能力を身につけ、学習指導法を実践的に学ぶことを基礎として、さらに特別支援を必要とする子どもの発達とその支援、子どもの発達段階に合わせた支援、成人期に至るまでの福祉支援などを身に付け、現場で広く活躍する人材を養成します。

先輩からひとこと

「特別支援サブコースでは、特別支援を必要とする子どもの発達を学び、支援の方法を見につけることを目指しています。学校や施設を見学したり実際に体験したりすることで、理論だけではなく実践力も身に付けることができます。

障害のある子どもたちの可能性を引き出し、成長を助けるための教材開発や、個々の子どもたちに合った指導方法について学び探求しています。特別支援教育におけるICTの活用研究は興味深いと考えています。また、これまで学校での教育が特別支援教育のすべてだと考えていましたが、家庭や地域社会など日々の生活の場面で子どもは学び、そして、その子に関わる人も共に成長していけることを知りました。そのためには、医療をはじめ様々な機関との連携も重要であることを理解しました。

このコースでは、教育、心理、福祉、医療の各専門の先生方に障害児教育の基本から実践方法まで幅広く教えていただいています。仲間と共に学び合いながら特別支援教育の高い専門性を身に付けることができると思います。

私は富山県出身です。この富山大学で学び、大学卒業後は県内の特別支援学校の教員として働いていきたいと考えています。在学中は、教育実習やボランティア活動で子どもたちから学び、多くの感動をもらいました。今後は、私が教員として共に学び感動を返してあげたいとい

う気持ちでいっぱいです。教育の多様化が求められている今、特別支援教育に関心がある方、また、個々の子どものよりよい発達を支援する技術を学びたい方は、ぜひこのコースで学んでください。」

(4年 尾田 真哉さん・特別支援サブコース)

「幼児教育サブコースでは、乳幼児期の子どものに関する知識を身に付け、幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得することができるコースです。最近は幼保連携型認定こども園が増え、幼稚園教諭免許と保育士資格のどちらも必要であることが多いため、両方を取得できるというところは魅力の1つだと思います。

普段の授業では、子どもの発達の特徴や子どもの発達に合わせた関わり方について学んだり、学生同士で絵本の読み聞かせを行ったり、ペープサートなどの教材作りをしたりします。また、子どもについての学習だけでなく、保育の計画の立て方や保育室の環境の作り方、保護者との関わり方についても学びます。

授業は座学だけではなく教育実習や保育実習などもあり、実際に保育の現場に入り、多くの子どもたちと関わる機会があります。実習で保育の様々なことを経験することで、講義での学びを深め、より専門性が身につくだけでなく実践力を培うことができます。私も初めての实習のときは子どもたちの前にでて話すことが難しく、予想外な行動をする子どもにうまく対応できなかったことが悩みでした。ですが、実習は1度だけでなく何度もあるため、回数を重ねるごとに段々と子どもが注目する話し方を身に付けたり予想外な子どもの動きにも臨機応変に対応したりすることができるようになりました。

この幼児教育サブコースには、将来保育士や幼稚園の先生を目指す学生が所属しており、子どもが好きな学生同士と一緒に日々保育について学びを深めています。子どもが大好き、将来保育の仕事に携わりたいと考えている皆さん、ぜひこの幼児教育サブコースと一緒に保育について学びましょう！」

(4年 寺尾 美穂さん・幼児教育サブコース)

取得可能な免許・資格

発達福祉コースでは、幼稚園教諭1種免許と保育士資格、もしくは小学校教諭1種免許と特別支援学校教諭1種免許の取得を基礎とします。

就職状況

幼稚園の教員免許と保育士の資格を取得した学生は幼稚園教諭、保育所または認定こども園、児童福祉に関する業務(公務員や施設職員)をめざしています。特別支援学校の教員免許を取得した学生は小学校教諭(特別支援学級を含む)や特別支援学校教諭、障害者福祉に関する業務(公務員や施設職員)をめざしています。

カリキュラムの特徴

発達福祉コースは、幼稚園教諭と保育士資格をめざす場合、特別支援学校教諭をめざす場合のそれぞれに、免許や受験資格取得に必要な授業科目が異なっています。そのため、コース選択及び取得する予定の免許の選択にあたっては、十分な検討が必要です。基礎ゼミナールなどで教員に相談ののってもらいながら、自分の進路をしっかり見極めることが重要です。

教員一覧と専門分野

- 小林 真(臨床発達心理学・精神保健学)
- 志賀 文哉(社会学)
- 千田 恭子(声楽・舞台芸術)
- 西館 有沙(保育学・児童福祉学)
- 野田 秀孝(社会福祉援助技術・医療福祉・地域福祉)
- 水内 豊和(発達障害臨床・家族支援)
- 宮 一志(小児神経学・障がい児医学)
- 若山 育代(幼児教育学・保育内容論)
- 和田 充紀(特別支援教育)



4年 北村 颯士さん



4年 中本 璃奈さん

活力ある地域社会で 健康を支えるスポーツリーダーになる

こんな人にお勧めします ▼

- ☐ 体育の先生を目指す人
- ☐ スポーツ指導者を目指す人
- ☐ スポーツや健康関係の仕事に就きたい人
- ☐ スポーツを心から愛している人

コースの特徴

保健体育の教員および地域スポーツの指導者をめざす人のコースです。明るく豊かで活力のある社会を実現するためには、生涯にわたってスポーツができる社会が必要であると言われています。そのためには国の政策はもちろんのこと、地域のスポーツ活動が盛んでなければなりません。地域スポーツコースでは、スポーツ文化、スポーツマネジメント、スポーツ医科学、健康科学、野外活動等の授業を通じて専門性と実践能力を身に付けてもらい、学校教育・行政機関・地域スポーツクラブ・スポーツ産業・健康産業などを通じて、地域のスポーツ支援、スポーツ振興、健康増進などにたずさわる人材「健康を支えるスポーツリーダー」を養成しています。

先輩からひとこと

「私は、小さな頃からスポーツを続けてきました。スポーツについてより専門的に勉強がしたい、将来スポーツ・体育の楽しさを子どもたちに伝えられる指導者になりたいと思い、保健体育科の教員免許を取得することのできる地域スポーツコースに進みました。

地域スポーツコースには、様々な分野に特化した先生方がいます。それぞれの分野での専門的な知識を学んだり、自分の専門種目でないスポーツを経験したりすることができます。そこで得た知識を部活動やそれぞれの専門種目で活かし、より高いレベルでスポーツに取り組むことができます。また、仲間の真面目にスポーツに向き合う姿勢に刺激を受け、学べることも多くあります。

このコースでは、教員だけではなく、その他の進路として消防や警察、一般企業やプロスポーツ選手など多岐にわたります。それぞれに違った夢があるからこそ、様々な考えや多様な価値観をもっています。そんな仲間たちと共に学び合える環境はとても魅力的です。

また、地域スポーツコースの醍醐味として、夏季・冬期野外実習活動があります。学生が主体となって企画・運営を行います。実習を通して異なる学年との交流を深め、実習ならではの充実感や達成感を味わうことができます。こうした経験は一生忘れられない財産になります。

スポーツが大好きな人たちと過ごす毎日には本当に楽しいです。ぜひ地域スポーツコースで実りのある大学生を送ってみてください。」

(4年 北村 颯士さん)

「私は昔から身体を動かすことが大好きで、自分のスポーツのできる範囲の幅を広げたい、運動中の身体の動きや運動が心にも与える影響を詳しく知りたいと思い、地域スポーツコースに進みました。

地域スポーツコースには、様々な分野のプロフェッショナルがいます。器械運動やバレーボール、陸上競技などの実技の授業では、ただその競技ができるようになるだけではなく、それぞれの競技の特性や技術、指導法、楽しさを学ぶことができます。そのほかにスポーツ史やスポーツマネジメントなどの授業では、歴史、スポーツ関連の企業や団体の経営やスポーツイベントの開催・運営にかかわるビジネス的な視点、アスリートとして考える栄養面やスポーツと子どもたちの発達といった、スポーツに関わる分野を専門的に学ぶことができます。

また、このコースの最大の特徴は、同期との仲はもちろん、先輩・後輩・先生方との結びつきがとても強いことです。普段の授業や毎年夏季と冬季に行われる野外活動実習で、コースの同期や先輩・後輩とかわる機会が多いからです。特に野外活動実習では学生が主体となり、他学年と協力し全員で作り上げるものです。より良い実習にするため悩み準備したこと、実習中の充実感や仲間と過ごした有意義な時間、実習後の達成感や自分の人生の財産になります。地域スポーツコースで出会った仲間、できた横と縦のつながりはかけがえのないものになります。

スポーツに興味がある方、身体を動かすことが好きな方はぜひ地域スポーツコースの一員になり、大学4年間を仲間とともに濃く楽しい時間を過ごしてみてください。」

(4年 中本 璃奈さん)

取得可能な免許・資格

地域スポーツコースでは、中学校教諭1種免許(保健体育)が取得可能で、この免許の取得を条件として、高等学校教諭1種免許(保健体育)を取得する事が可能。他、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、アシスタントマネージャー(受験資格)、共通科目修了証I・IIなど。

就職状況

学校教員、国・地方公務員(県庁・市役所職員、警察官、消防士、自衛官、刑務官など)、総合型地域スポーツクラブ・民間スポーツ施設の指導者および運営スタッフ、健康・スポーツ振興財団や体育協会の職員、各種福祉施設職員、病院職員、マスコミ関係(スポーツ新聞・テレビ局など)、スポーツ関連企業(メーカー、プロスポーツ等)、一般企業等(自動車産業・銀行・製造業など多数)

カリキュラムの特徴

1. 高度差4,000mを誇る日本海と立山の豊かな自然のなかで行う野外実習(立山登山・臨海実習・スキー実習)
2. スポーツ文化やスポーツ医科学などの専門知識と、それらを現場で活かすことのできる実践能力を養う演習および実習(地域スポーツ演習・インターンシップ・教育実習)などの学習内容を重視しています。仲間とともに学び育つこと、そしてそれを指導することは、教員としてスポーツ指導者として、いま社会から強く求められています。

教員一覧と専門分野

大川 信行(スポーツ史・バスケットボール)
 神野 賢治(スポーツ社会学・スポーツマネジメント)
 佐伯 聡史(スポーツ運動学・体操競技・器械運動)
 澤 聡美(スポーツと発達発達・身体表現)
 福島 洋樹(スポーツ心理学・陸上競技)
 堀田 朋基(身体運動学・サッカー)

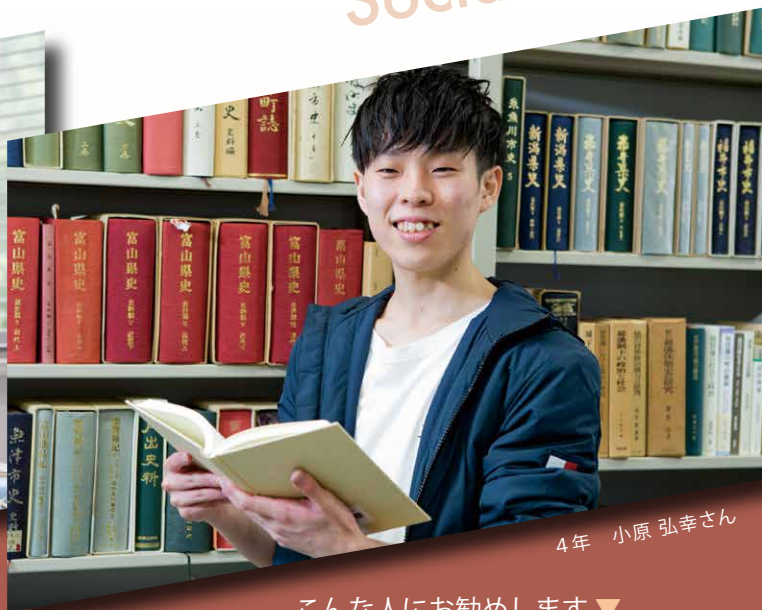
人間環境システム学科

環境社会デザインコース

Environmental Social Design



4年 陶山 智子さん



4年 小原 弘幸さん

グローバルな視点で 自然・生活・地域社会の諸問題に取り組む

こんな人にお勧めします ▼

- ☐ 中学校の教員（理科・社会）をめざす人
- ☐ 専門知識を身につけた公務員をめざす人
- ☐ 環境問題に関心のある人
- ☐ 生活環境を改善する仕事をしたい人

コースの特徴

グローバルな視点から自然・生活・地域社会の諸問題を総合的に把握し、実務を的確に処理して社会に貢献する人材を養成する事をめざして、バラエティに富んだ授業科目を開講しています。

これに対応して、物理、化学、生物、地球科学、科学ジャーナリズム論、地理、歴史、法律、世界政治、住居学、栄養学と多岐にわたる専門の教員がおり、学生は自分の関心や将来の進路を考慮して、学ぶ科目を自由に選択する事ができます。さらに特別研究では、特定分野の内容を深く追究する事も、複数教員の指導による学際的な研究をする事も可能です。

先輩からひとこと

「大学に入る理由というのは、専門的な深い知識を得たい、色々なことに挑戦し教養を深めたい、特に学びたいことは見つかっていないけれど何か勉強がしたい、など人それぞれだと思います。環境社会デザインコースは、そんな人たち全員が自分の可能性を大きく広げることのできるコースです。

このコースでは歴史、地理、地球科学、国際政治など様々な分野の講義が開講され、自分が関心を持った科目を選択することができます。私は社会分野の勉強がしたいと思いこのコースを選択しましたが、社会分野に限らず、作物の栽培、色彩理論、地学など様々な講義を積極的に受講し、自分の視野を広げることができました。また、実習の講義が多く開講されることもこのコースの魅力です。畑を耕す、配色を考える、化石に触れるなどの実践的な経験を通して、普段の座学では分らないリアルな学びを得ることができます。

2年次に開講されるプロジェクト研究では、コース内のあらゆる先生のご指導のもと、テーマに沿って学生たち自身で課題を見つけ、グループごとに研究を進めます。互いに意見を出し合い、研究方法を模索し、最後には論文を書き上げることで、4年次の特別研究にも繋がる研究スキルを身につけることができます。

様々な専門分野の個性豊かな先生たちのもと、バラエティ豊かな勉強ができるこのコースでは、卒業まで飽きることなく新しい気づきや発見の毎日です。卒業後の進路は、教員や

公務員、民間企業など学生によって様々ですが、ここで養う幅広い視野は将来どの職についても必ず活かせる力となります。ぜひこのコースで仲間と切磋琢磨して、生涯忘れることのない充実した大学生活を送ってください。」

(4年 陶山 智子さん)

「このコースでは自然・生活・地域社会と幅広い分野の内容を取り上げた講義を開講しています。それぞれ基礎的な内容から発展的な内容まで取り扱っているため、大学で幅広く様々なことを学びたい人にはもちろん、専門的に学びたい人にもおすすめしたいコースです。

私は中学校1種の社会科、高等学校1種の地理歴史・公民の教員免許を取得するための授業を選択し受講しています。他コースの講義も選択することができるので、就職科目で教育に関することを学び、専門科目で専門性を深め、その他の講義では自分の教養を増やすために勉強しています。このように目指している職業に必要な、知識や教養を身に付けるために講義を選ぶことも可能です。

また、このコースに配置されている研究室には、3年生になる際に配属されます。それぞれの研究室で学んだ知識を持ち寄り、1つのことを様々な視点から研究することもあります。違う研究室の学生と関わることで様々な刺激があり、より深い学びとなります。私は、日本史学を専門としている先生のゼミに入っており、古文書など今までの学生生活では学んだことももちろん見たこともなかった事柄を学んでおり、日々新鮮な気持ちを感じています。

このコースは、文系・理系が合わさっています。そのため、多面的・多角的な視点や思考を養う機会が多いという点では大変な魅力があります。また、卒業後の進路は、教員や公務員、民間企業など様々であることも大きな魅力です。このように自分自身と歩んだキャリアや将来の目標が異なった同級生、先輩、後輩と交流することで新たな自分が発見できる、というところがこのコースの良いところです。」

(4年 小原 弘幸さん)

取得可能な免許・資格

環境社会デザインコースでは、中学校教諭1種免許(理科、社会)が取得可能で、これらの免許の取得を条件

として、高等学校教諭1種免許(理科、地歴、公民)を取得する事が可能になります。

就職状況

本コースが育成する学際的な視野と実務能力を兼ね備えた人材はさまざまな職種で評価され、多様なフィールドで活躍の場を広げています。本コースのバラエティに富んだスタッフとカリキュラムを学生たちが思う存分に活用して、自分が本当に進みたい分野を発見し、社会に羽ばたいていく事を期待しています。

主な就職先・進路: 学校教員、地方公務員(警察含む)、一般企業(銀行など)、その他大学院進学

カリキュラムの特徴

文系・理系にとらわれないものの見方や問題解決能力の育成を目指します。なかでも複数教員が指導するプロジェクト型授業が特徴的です。2年次「プロジェクト研究」では、地震や食などの学際的なテーマを題材に、課題発見から問題解決に至る研究方法を学び、1つのプロジェクトの企画から運営まで学生が取り組みます。このような取り組みにより4年次の特別研究や卒業後の進路につながる実践的なスキルを身につけます。

教員一覧と専門分野

秋月	有紀(住居学・建築環境工学)
池田	文佑(世界政治学)
片岡	弘(物理化学)
河村	愛(地学・古生物学)
高橋	満彦(環境法(自然保護・動物・農業))
徳橋	曜(歴史学・イタリア中世史)
中村	只吾(日本史学(近世史))
成行	泰裕(宇宙プラズマ物理学・物理教育)
林	衛(カリキュラム開発研究・市民社会メディア論)
藤本	孝子(栄養学・食品機能学)
安本	史恵(生命科学・神経科学)
山根	拓(人文地理学・近代歴史地理学・都市地域学)

人間情報コミュニケーション
コースHuman Information
Communication

4年 三島 大武さん



4年 西角 紫帆さん

多様なコミュニケーション能力で
新たな時代を切り開いていく人材を目指す

こんな人にお勧めします ▼

- ☐ 英語力を活かした仕事をしたい人
- ☐ IT企業で活躍したい人
- ☐ メディアクリエイターを目指す人
- ☐ 数学、英語の先生を目指す人

コースの特徴

国際化、情報化時代にある現在、言語、ICT（情報コミュニケーション技術）等の手段を駆使し、多様な文化的背景を持つ人々と協力して、地域レベルから国際的な諸分野まで活躍できる人材が求められています。人間情報コミュニケーションコースでは、言語、ICT、数理、メディアによるコミュニケーション能力を育て、新たな時代を切り開いていく人材を養成します。特別研究では、新しいコミュニケーション能力、表現方法の探求、支援技術や指導方法の開発など、バラエティに富んだ研究領域から選択し、深く追究していきます。

先輩からひとこと

「このコースでは大きく分けて、英語、日本語、数理、メディアの分野について学ぶことができます。

私はその中でも英語を専攻していて、将来英語教師になることを志しています。私の所属するゼミでは英語教師として必要な知識やスキルについて、同じ志を持つ仲間を始めとして、現職の先生などとも意見を交えながら学ぶことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができています。

コースの授業でも同じく有意義な時間を過ごすことができました。英語については、ネイティブの先生が担当される授業を通して、4技能の力をバランス良く成長させることができました。これらの力は必ずや将来役に立つと感じています。

必修のプログラミングの授業では、学んだコンピュータ言語を適切に利用する力、論理的に思考する力、そして課題に対して粘り強く取り組む力を身につけることができました。苦労しながらも、実行したいことができた瞬間の達成感はとても印象的です。

そして最後に、コースの名前にもなっていますが、コミュニケーションが授業の内外で多くあったのも大きな特徴です。様々な仲間と、会話を通して多くを学び、時には助け合ったのも良い経験です。

このコースに所属してから、様々な経験をし、充実した日々を過ごしてきました。皆さんもこのコースで、仲間と

ともに充実した日々を過ごしませんか?」

(4年 三島 大武さん)

「人間情報コミュニケーションコースでは情報メディア、数理、日本語、英語コミュニケーションなどの分野について学ぶことができます。講義は基礎的な内容のものから専門的な演習まで開講されており、自分の興味やレベルに合わせて授業を選択できることが魅力だと感じます。私は現在情報メディアを専攻していますが、これまでに言語や英語コミュニケーションに関する講義もたくさん受講してきました。色々な知識を学ぶことによって視野が広がり、多角的な視点を身につけることができたと感じます。これは日常生活や現在取り組んでいる特別研究にも活かすことができおり、このコースに所属して得た大きな収穫であったと実感しています。幅広い分野を学べることから、所属学生の目指す進路もさまざまです。教員志望の学生はもちろんのこと、他の職業に就くことを志す学生もいます。多くの分野について学んでいく中でじっくりと自分の進路について考えることができます。私は日々、このコースの講義や所属している仲間との交流で多様な知識や考えに触れ、自分の学びを深めることができている。また、専門分野以外の内容について学ぶ機会があるため今まで以上にあらゆる事柄に興味を持つようになり、生活が充実したと感じます。学びたいという気持ちを存分に叶えられる環境があるのが、人間情報コミュニケーションコースです。あなたも授業や仲間とのコミュニケーションを通して成長できるこのコースで、有意義な大学生活を送りませんか?」

(4年 西角 紫帆さん)

就職状況

どの分野の職種でも、コミュニケーション能力は最も求められる能力です。また、情報や言語、表現といった専門的知識を活かし、様々な活躍の場を広げています。大学院進学者を除いて、これまでの卒業生は、学校教員、国・地方公務員（県庁・市役所職員）、IT関連企業（システム開発、Webデザイン）、広告、印刷出版、映像制作、マスコミ関係、イベント関係、一般企業等に就職しています。

カリキュラムの特徴

人間の様々なコミュニケーションとメディアについて、1. 理論的な内容「異文化コミュニケーション論」、「線形システム概論」、「メディアコミュニケーション概論」、「メディア芸術論」など
2. ICT、英語を道具として使いこなす実践力を養う演習「情報集中演習」、「英語集中演習」、「テクニカル・ライティング」、「メディアデータ編集法」などのように理論的な内容と実践力を養う演習を通して、バランス良く学びます。また、コース内の様々な分野の科目だけでなく、他の学科、コースの科目を組み合わせることで、自分の興味関心や将来の職業に合わせた特色を持ったカリキュラムを作ることができます。

教員一覧と専門分野

石川 秀明(数論・解析数論)
荻原 洋(応用言語学・言語習得論)
上山 輝(デザイン・マルチメディア・映像)
黒田 卓(メディア教育・教育工学)
竹腰 佳誉子(アメリカ文学・異文化コミュニケーション)
竹村 哲(システム思考・問題解決学・創造性開発)
鼓 みどり(メディア論・メディア史)
内藤 亮一(英文学・シェイクスピア)
西田谷 洋(日本近代文学)
宮城 信(日本語学・国語教育)
山口 範和(偏微分方程式論・数学解析)

取得可能な免許・資格

人間情報コミュニケーションコースでは、中学校教諭1種免許(数学・英語)が取得可能で、これらの免許の取得を条件として高等学校教諭1種免許(数学、英語)を取得する事が可能になります。

授業や研究の様子

発達教育学科 教育心理コース

臨床心理学



臨床心理学は幅広い心理学分野の中で、心理療法・心理アセスメント・カウンセリングといったトピックを含み、心理的な困難を抱えた人の支援にかかわる、実践の学です。さらに、心理的な困難を多角的に理解するため、精神医学や異常心理学といった近接領域のトピック

も関係してくる、とても幅広い学問分野になります。この授業では、このように幅広い内容からいくつか重要なものを取り上げて、丁寧に解説していきます。無意識的な「こころ」の影響であったり、具体的な行動の改善であったり、「こころ」の自己癒力的な話も含みます。この授業を通して、心理的な適応・不適応とは何かについて深く問いかけ考えることにより、自分自身のメンタルヘルス、ひいては自分自身の来し方行く末を考える、良い機会になるかもしれません。

心理統計学



心理学では、人の心の仕組みを知るために、実験や調査などを通してデータを収集します。「心理統計」では、そのようにして集めたデータを分析・理解していく手法を学びます。具体的には、統計学の基礎知識、データの分析方法についての基礎知識、実際のデータ

解析の体験を伴う学習を行います。このようなデータ解析を通して、ある心理的介入の効果が本当にあったかどうかや、人の心の仕組みについての仮説を検証することができます。データ解析の知識や技能は、心理学に限らず、今後どの職種においても重要なものとなってきます。特に「人」に関わりを持つ仕事においては、必須のリテラシーとなりますので、ぜひ学んでもらいたいと思います。

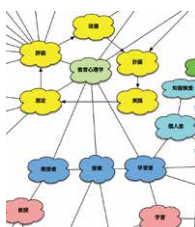
教育心理学実験



この授業では、代表的な心理学の実験をいくつか体験・実施してもらいます。このことを通して、人の心理に関して現在分かっている理論や仮説について、より深く学んでいきます。また、実験計画の立て方、仮説を検証するための条件統制の考え方、

データ解析のやり方、レポートの書き方などを学んでいきます。これらは、今後実際に自分が研究する際に必要な知識・技能であるとともに、実際に社会に出た後も役に立つスキルだと言えます。

教育心理学



よりよい教育を行っていくためには、人（子ども）はどのように世界を認識し、どのように世界と関わっていくのか、どのように発達していくのかにつ

いて、しっかりと知っておく必要があります。教育心理学では、このような人（子ども）が持っている心理的なメカニズムについて学んでいきます。具体的には、記憶のメカニズム、学習のメカニズム、やる気のメカニズムなどについて、基礎知識を習得します。このような人間心理のメカニズムは、教育という仕事を行う上で重要な知識であることはもちろん、自分を知る・人間を知るというより広い視点でも重要な知識となります。

臨床心理実習



「臨床心理実習」では実際の教育現場に出て、悩みを持つ生徒と関わりを持つ実習を行います。その前提として、学校現場で相談活動を行うために必要な知識やコミュニケーション技術の演習などを行います。実際に悩みを持つ生徒とのコミュニケーション

は千差万別で、1つとして同じようなパターンを示すことはありません。そのような1人1人が持つ思いにしっかりと寄り添い、共感するという体験を積んでもらいます。この経験は、将来教育現場に出た時だけでなく、より広い社会活動で生きてくるといいます。

心理学研究法



心理学は大きな分類としては社会科学に含まれる分野であり、他の社会科学と同じように、客観的・科学的な手法にのっとって人の「こころ」を分析し、その一般的傾向や法則性を見出していく学問です。そこで重要になってくるのは、分析対象となるデータを客観的・確かな形でどのように集めるか、といった収集

方法や、得られたデータを体系的に解析して豊かな情報を引き出ししていくための分析手法です。心理学の研究対象である「こころ」は捉えどころのないものなので、ターゲットとして幅が広く、そのためデータの集め方や分析手法にも多くの種類があります。この授業では、心理学の研究論文を調べて読むことで、科学としての心理学的データの集め方や分析手順を学んだり、それらを踏まえて実際にデータを集めて分析してみたりすることで、心理学の研究の「作法」を実践的に学びます。

発達教育学科 学校教育コース

図画工作科教育論



この講義では、小学校の図画工作科の授業を担当するために必要な知識や技能を獲得することを目的としています。毎回、

実際に小学校で使用されている教科書を用いて班ごとに教師役の学生が模擬授業を行いながら、指導に求められる基礎的な事項や理論について学ぶことができるようにしています。写真は、6年生の「くるくるクラック」の導入を教師役の学生が行っているところです。

理科教育論



この講義では、「なぜ理科を学ぶのか」、「理科の学習指導方法論には、どのようなものがあるか」といった、理科の授業を

行う上での基盤となることについて学習することに加えて、小学校理科で行われる観察・実験を自らが体験しながら、授業を担当するために必要な知識や技能が獲得できるように配慮しています。さらに、小学校理科の授業参観や、自分自身が教壇に立って授業を行う模擬授業を通して、実践力の向上を図っています。

総合的な学習の時間教育論



総合的な学習の時間は、教科の学習と異なり、教科書がありません。児童生徒が自ら学習の課題を設定し、情報を収集し、それを整理・

分析し、その結果をまとめ、表現します。この講義では、児童生徒が自ら課題を設定するための教師の支援、児童生徒が主体的に情報収集を進めるための教師の支援などを学びます。文献等を基にしながらも、受講者同士の話し合いを中心に、具体的な支援や指導の方法等を考えます。教師になったときに必要な実践的な力を付けることをねらいます。

地域交流活動論



この講義では、学校から地域へどのような連携を投げかけて交流を行ったらよいのかについて、求められる知識や態度を育

成することを目的としています。毎回、学校における地域交流活動の事例を紹介したり、ゲストスピーカーを招聘したりして、最終的には、受講生が企画した地域交流活動を用紙1枚にまとめてプレゼンテーションを行います。写真は、黒部市美術館の学芸員さんに館の活動についてお話をしていたところです。

音楽科教育論



小学校で音楽の授業を担当する教員として必要な知識と技能を身につける科目です。写真は、グループに分かれての教材

研究で、「こきりこ」を歌とリコーダー合奏に編曲してやってみようというものです。

教育の思想と歴史



この講義では、「教育とはそもそもどんな営みだろうか」、「過去と現在で教育や学校のあり方にどのような変化があるのだ

ろうか」といった問いのもと、教育をめぐる理念や思想、歴史について学習します。こうした学習を通して、教育学の各分野や各教科の指導法を学んでいくための土台を固め、また、現代社会における教育や学校の意義・可能性・課題について自ら批判的・創造的に考える力を養うことを目指します。

発達教育学科 発達福祉コース

地域福祉論



今日の福祉の目的は地域における福祉の推進（地域福祉の推進）であり、地域はその特色も様々です。子どもが多い地域もあれば高齢化の進んだ地域もあります。その地域に住んでいる人々の生活に合わせて、そこに住む人々が、主体的に福祉に

参加することができる社会・地域の福祉の課題を解決できる社会をどのように構築するのかを考察します。地域福祉に関する歴史的認識、今日的に到達した概念、地域を援助する技術的な方法論なども含めて、今後とも変化していく地域福祉に適切できるように基本理論を学びます。少子高齢化の進む今日の社会の中で安心して生活できる地域とはなにかを専門家として将来的に実践できることを目指します。

知的障害児の教育診断臨床Ⅰ



教育支援・心理診断に欠かすことのできない諸検査や、知能や心身の発達に関する様々な評価方法について学習します。具体例をあげると、乳幼児の発達評価（M-CHAT、KIDS）、発達障害の評価（PARS、ADHD-RS IV）、学習障害の評価、語い発

達検査（PVT-R）、知能検査（田中ビネー、WISC-IV）、適応行動尺度（Vineland-II）など、多種多様な諸検査の目的、内容、実施法、採点・評価法、利用法について学ぶことのできる授業です。知能検査は机上で学習するだけでなく、附属学校園との連携のもと実際に実践を行う場合もあり、実施法および利用法についての学びを深めています。心理評価法に関して講義・演習・実践を通して習得できる特色ある授業です。

保育内容（人間関係）



幼稚園・認定こども園・保育所では、小学校以降の学習と違って「教科」という考え方が存在しません。幼稚園等で行う教育は「領域」と呼ばれています。大学では、こうした教育の内容（保育内容）について専門的に学びます。幼児教育の中に

は「人間関係」と呼ばれる領域があります。乳幼児期の人間関係の発達に関する講義のほかに、演習による学習活動の一環として、人間関係を育てるゲーム遊びを自分たちで考え、保育の模擬体験があります。この写真は、子どもたちが協力して遊びを進めているように、視覚的な手がかりを使って遊びのルールを説明する模擬保育の一場面です。本学部ではこうした体験的な学習も大切にしています。

保育内容（言葉）



本演習は、乳幼児の言葉の発達を援助するための知識、技術、判断力の基礎を身に付けることを目的としています。この演習では、乳児期から年長児までの言葉の発達を理解し、それぞれの年齢に応じた関わりについて15回を通して考えます。この写真の回では3歳以

上児向けの絵本を各自が持参し、読み手と聞き手が一緒に楽しんだり、一体感を味わったりできる絵本を読むと、わくわくしたり、思わず笑ってしまったり、時には悲しい気持ちになったりすることがあります。そのような喜びや他者との一体感を子どもたちに感じてほしいという願いを持って、受講生は絵本を読む練習をしています。

特別支援教育学Ⅰ・Ⅱ



特別支援教育学Ⅰ・Ⅱでは、「障害」、「障害のある子ども」、そして「特別支援教育」とは何かということについて、講義のみならず、障害のある幼児の在籍する保育所や障害者雇用現場を訪ねることなどを通して理論的、体験的に考え、学びます。

またその中で、生涯発達、家族支援、自己理解、自己選択と自己決定、インクルーシブ教育、アクセシビリティ、合理的配慮など重要な概念についても探求します。毎回の講義では、一人一台 iPad を用いており、実際に障害のある子どもがわかって動くための支援ツールを作成したりするなど、これからの時代にあたりまえとなる ICT リテラシーの高い教育支援人材の育成をねらいます。

特別研究



3年生から専門のゼミナールに所属し研究に向けての第1歩を踏み出します。中間発表会では4年生での卒業論文執筆に向けて、自分自身の問題意識、研究方法、卒業論文の構想などを個別発表し、質疑応答などを通して論文を仕上げる準備をしてい

きます。卒業論文発表会では大学4年間の学習・研究成果をポスターにまとめ発表するとともに個別発表をします。後輩などからの盛んな質疑に回答し、4年間の成果を示します。

人間環境システム学科 地域スポーツコース

スポーツ指導論



運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければいけません。「運動技術」「運動技能」「運動構造」「運動能力」「運動習熟」「運動の観察」「運

動モデル」「運動ゲシュタルト」「運動の学習転移」などの各項目についての論理的な理解をもとに、スポーツ・運動指導の方法について解説しています。

スポーツマネジメント



スポーツの産業化とともに、スポーツに関連する仕事が増えてきました。スポーツを商品とし売買をする「マーケティング」やスポーツを利用して仕組みづくり

をする「マネジメント」について、具体的な手法を学び研究します。また、現場の企業・団体（プロスポーツクラブ、行政等）において企画・運営などを実践していきます。

地域スポーツ演習



「健康・スポーツ」をキーワードに、地域に対してサービスを創出する授業です。「ヒト・モノ・カネ・時間・環境」に制約される条件のもと、企画・運営・管理を

おこない、実務を通じて、その問題点や限界について議論を深め、企画を遂行・統括する視点を身につけることができます。

スポーツ動作分析法



地域スポーツ支援に関する科目として、各種スポーツにおける動作の撮影方法について学び、各種スポーツ支援の一助となることをねらいとしていま

す。動作を撮影する際のカメラの設定方法、撮影場所の設定等について理解し、各種スポーツに適した動作を撮影できるようにします。

夏季野外活動実習



夏季野外活動実習（臨海）では宿舎・食事・安全管理等の重要事項を学

生が中心となって「協力してやり遂げる力」を養います。

スポーツ医学



スポーツ傷害の概要とスポーツ傷害を起こす要因について学び、スポーツの現場でできることは何かを考える授業です。整形外科か

ら「休めば治る」と言われたらどう捉えればよいのか、「やれば痛くなる」のをどう克服すればよいのか分か

授業や研究の様子

人間環境システム学科 環境社会デザインコース

人間社会の地理学



「地理学とは何か？」を考えます。地理学の変遷を追跡し、様々な対象・社会現象を地理学的に考察する方法を学ぶことにより、地理学的視角 (Geographical Perspective) を理解します。

都市景観論



都市計画における美観整備や歴史的建造物の保存、広告規制、景観法などの法整備について、各国の都市の取り組み事例を踏まえ解説します。また町並み景観整備に積極的に取り組んでいる富山県下の地区を紹介します。

基礎生命科学実験



生物のからだの構造と機能がいかに関連しているか、実習を通じて体感する。また時間軸、個・群と様々に視点を移動しながら、「生命」をとらえる。写真は脳の組織。

栽培技術実習



本学部が保有する附属農場で行われる授業です。キュウリ、ナス、トマト、じゃがいも、さつまいもなどだけでなく、米、エコマ、花卉などの様々な作物を種から育てて、収穫を楽しんでいます。

地球社会学演習



現代世界が抱える「地球的問題群」を多面的に理解し、解決に向けた方法を探ります。写真は論文執筆のために行ったインド・ハリヤーナ州での調査の1コマです。

栄養学



各栄養素の分類、体内での働き、消化と吸収などの栄養に関する基礎知識及び健康と食物摂取との関わりについて学びます。

人間環境システム学科 人間情報コミュニケーションコース

英語集中演習



英語の読解力に大きな影響を与えるものとして語彙に関する知識があります。またその語彙の力をつける有効な一つの方法に「多読」と呼ばれる勉強方法があります。この授業では、多読の方法について説明すると共に、受講者がそれぞれ自分に合ったレベルの英語の本を「大量に読む」ことによって、英語の語彙力や読解力を身に付けることを目指します。

情報集中演習



コンピュータは清書の道具ではなく、煩雑な作業を合理化し、効率化するためのツールです。コンピュータに使われるのではなく、本当にコンピュータを使うために、実際に動くプログラムを作成しながら、プログラミングの考え方をマスターすることをめざします。

テクニカル・ライティング



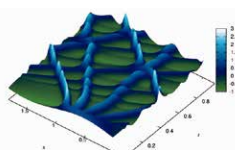
人に物事を正確に伝えるための文章の書き方を学びます。また、書くためには知識・技術が必要です。具体的には小説分析の課題で、自分で調査・考察した文章を作成し、口頭発表・質疑を行い、表現能力を高めます。

日本語運用基礎論



「日本語運用基礎論」は、これまでお座なりにしてきた日常のコミュニケーション (例えば、願ひする、誘う、説明する等) をうまくいかなかった会話例を検討しながら、自分なりの伝え方を創り出していく授業です。

モデル化とシミュレーション



様々な自然現象に対する数学的アプローチの方法を学びます。図は計算機シミュレーションを用いて描いた浅水波方程式の解の時空間におけるグラフです。浅水波方程式は津波の数値モデルの一つです。

メディアデータ編集法



1年次後期にある基礎的な専門科目の授業です。メディアデータの制作の基本となるアプリケーションの使い方をマスターし、将来のデザインや映像、コンテンツの課題に対応できるような基礎力を身につけます。

子どもとのふれあい体験

「子どもとのふれあい体験」は、本学部の1年生から3年生対象の特徴ある授業科目です。社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあう体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供する目的で設定されています。この科目は、単に大学内だけに留まらずに、各コースとも地域社会に出て、関係団体・施設等との関わりの中で、人を育てる人を育成する科目として非常に重要な役割を果たしています。この科目を選択して、年間60時間の活動を行い、体験レポートを作成すると、2単位を取得できます。教員をめざす学生のみならず、公務員や一般企業への就職をめざす学生にとっても、社会と繋がる貴重な実践の場として認識されています。

発達教育学科共通専門科目

(1999年度から開設)

□ 選択必修

・発達教育学科 学校教育コース

□ 選 択

・発達教育学科 教育心理コース
・発達教育学科 発達福祉コース

□ 人間環境システム学科

教員免許取得希望者は、受講することが望ましい。

子どもとのふれあい体験 各コースの紹介



1 野外活動 コース(A・B・C)

本コースは3つのサブコースに分かれ、それぞれ「野外活動」や「キャンプ活動」を通して、子どもたちとふれあいます。Aコースでは、富山県キャンプ協会主催の「コアラクラブ」の野外活動にボランティアとして参加し、子どもたちのリーダーとなって自然体験活動のサポートをします。Bコースでは、立山青少年自然の家主催の「ボランティア養成セミナー」を受講し、自分の選んだキャンプ事業にボランティアとして参加します。Cコースでは、砺波青少年自然の家で夏合宿や秋冬に子どもたちの合宿をサポートします。それぞれのコースでは、講習会に参加し、「野外活動」や「キャンプ活動の知識・技能を学ぶだけでなく、実際の「キャンプ活動」等にボランティアとして参加し実践力を身に付け、指導者としての力量の形成をはかります。



2 遊び援助 コース

本コースは、放課後や休日の子どもたちの健全育成を目的として、小学生が児童館で様々な遊びを体験するのを援助するコースです。富山市東部児童館と、富山県子どもみらい館（射水市太閤山ランド内にある大型児童館）に分かれて活動します。実際に子どもとふれあうのは原則として毎回、ミーティングや準備をして5月から3月までの月1回活動を行います。それ以外にも児童館が開催する各種の活動に参加し、子どもの支援を行う場合もあります。



5 科学実験・ICT 活用 コース

本コースでは、学校外における教育機会への参加を通じて、子どもとのふれあいの中で広い意味でのサイエンス・教科教育・ICT活用を行うための基礎を学びます。子どもに「楽しい」「面白い」と感じてもらう正しい科学やICTの知識を身につけてもらうための工夫を重ねる中で、自分自身（受講生）の学習と教育実践を結び付ける力を養います。昨年度は、本大学の夏季学童保育、かたがて保育園、理学部主催のサイエンスフェスティバル、富山市立科学博物館で、それぞれ子どもたちを対象に楽しい実験の場を設けました。



3 不登校児童生徒の援助 コース

富山県総合教育センター教育相談部が主催している「体験活動」や「グループカウンセリング」に参加し、実際に不登校児童生徒とのふれあいを行います。「学校は楽しいところ。」そんな多くの人にとっては当たり前のように思えることが当たり前ではないという子どももいます。学校は先生や周りの友達と関わり、勉強するだけでなく、社会のこと、人間として生きていく上で大切なことを学べる場です。しかし、人間関係が複雑で多くの悩みや、問題が生まれる場ともいえるでしょう。実際に悩みを抱え学校にいけない子どもは多くいます。本コースはそんな子どもたちと実際にふれあい親身に向き合っていくことができます。



6 発達の気になる子どもの援助 コース

小学校や中学校には、軽度の知的障害児や発達障害児、そして特に医学的な名前はないけれども、発達が気になる子どもが数%在籍しています。本コースでは、発達障害児などの子どもを育てている親の会で、『富山県LD等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」』に参加して、子どもたちの健全育成を図ります。「ゆうの会」それ自体は親の会ですが、その子どもたちは発達障害や軽度の知的障害を有しています。こうした子どもたちに、健全な遊び場や社会参加・社会貢献できる場を保障することで、子どもの発達を促す場づくりを行っています。なお、本コースは、子どもの年齢に応じて小学部と中・高部の2つのグループに分かれています。



4 美術館子どもワークショップ運営 コース

本コースでは、富山県内の美術館における子ども対象のワークショップ「とみだい☆べけべけアートショップ」を準備・運営します。ここでは、展示作品の鑑賞をきっかけにした制作を行うワークショップを通して、子どもたちとふれあうことを目的とします。美術作品に親しむことを核にした作品との出会いの仕組み方や、楽しいものづくりの準備を行うことで、子どもたちに興味・関心を抱かせるための活動をどのように運営していくかについて実践的に学ぶことができます。昨年度は、本学部の図工室以外に、南砺市立福光美術館、童牛人記念美術館、朝日町立ふるさと美術館、ギャラリー・ミレー、庄川美術館でワークショップを開催しました。

富山大学スマイルフェスティバル



開場を待つ親子連れの行列

本イベントの前身は、旧教育学部で始まった、「遊ばん会」で今年で24年目になります。発足当時、学生の中で、教育学部に入学したものの、教育実習以外には子どもと接する機会が少ないという声がありました。そこで、彼らとふれあうことのできるボランティアの場が大学内に設けられたことに始まります。

以来、毎年学生たちで実行委員会が立ち上げられ、企画ごとに年1回のイベントに向けて、授業の合間や部活やアルバイトの合間を縫って、準備が進められています。当日は五福キャンパス全体を大きなテーマパークのように見立て、親子の来場を迎えます。令和元年度に行われた企画では、3,989人の親子が来場し、楽しい一時を過ごしました。



初期の頃は、本学部の前身である教育学部の学生が中心になって準備し運営してきた企画ですが、近年はほぼ全学部からスタッフが集まって、毎年子どもたちの笑顔のために一生懸命準備を行っています。また、自身が子どもの頃に参加した思い出を胸に、本大学に入学した後で、今度はスタッフとして参加する側になる学生も毎年多く出ています。さらに、本学を受験する前にスマイルフェスティバル当日に参加し、本大学に進学する意志を固め、受験を乗り越え晴れて合格し、スタッフになる者もいます。

本イベントは、11月に行われる本番のみだけでなく、富山県が開催する「とやまっこ未来フェスタ」に参加（令和元年度は「巨大迷路」「夢い〜っぱい☆遊べるおもちゃ工房」「おかしの国」）しています。

スマイルフェスティバルは毎年、地域の方々の協力や富山県教育委員会、富山市教育委員会の後援を得て開催することができています。これからも多くの人から愛されるイベントになるよう努めていきます。

富山大学スマイルフェスティバル2019スタッフ



富山大学 スマイルフェスティバル 2020

● ● ● ● ● 実行委員代表からの一言 ● ● ● ● ●

人間発達科学部

発達教育学科学校教育コース 4年

大野正侃

「富山大学スマイルフェスティバル」とは、人間発達科学部含め、様々な学部の学生が参加し、学生が中心となり企画運営するイベントです。

私は保育所に通っていた頃から小学校高学年まで、スマイルフェスティバルに参加していました。当時の私は、このイベントをとっても楽しんでおり、「将来、自分も大学生として参加したい」と思っていました。大学生として初めて参加した年は、本番2日間のために半年以上準備をしたり、中々進まない事があったりと、大変なことばかりでした。しかし当日を迎え、かつての自分のように笑顔で楽しんでいる子供たちの様子を見て、とても大きな喜びや達成感を感じられました。また、来場する親子に「ありがとう」「来年も来たい」と言われ、とても誇らしく思いました。

来場者が楽しめるだけでなく、学生も様々なことを得られる素敵なイベントです。今後も多くの人が喜びを感じられるイベントであってほしいと思います。

各企画紹介

巨大迷路

使う材料は最大2メートルを超える大量の段ボールです!毎年1つのテーマを決め、それに合わせた世界観の迷路を体育館一面に作ります。昨年は「昔話の世界に飛び込もう!」というテーマでした。お城やお菓子の家などの昔話に出てくる物だけでなく、子どもにわくわくしてもらえるように様々な仕掛けも作っています。当日は子ども大人も一緒に楽しんでいる様子が見られました。



夢いっぱい☆遊べる! おもちゃ工房

この企画では、子どもたち自身が好きなゲームを選び全力で遊べるよう、スポーツを基にしたゲームをいくつか考えています。昨年は「世界」をテーマに相撲、サッカー、ピンボール、アスレチックの4つを行いました。広いグラウンドを使うので、子どもたちは体を大きく動かして楽しそうに競い合っていました。何度も挑戦する一生懸命な姿を近くで感じながら、多くの子どもたちと関わることができます。



おかしの国

昨年度は「時代」をテーマに「平安」「江戸」「平成・令和」という時代をお菓子だけを使って表現し、子どもから大人まで様々な方に見ていただきました。キット体験では、子どもたち一人ひとりが自分だけの「おかしの汽車」を作り、完成したキットを見て、とても喜んでいました。また、4つの味のチュロスを販売し、多くの来場者の方におかしの国を楽しんでいただきました。



ちびっこチャレンジャー

この企画では、毎年子どもたちが一度は冒険してみたいと思う世界をテーマとし、構想から、ゲーム内容、衣装に至るまで、全てを学生の手で作っています。昨年のテーマは、「スモール・トイランド～おもちゃの国～」でした。おもちゃの国を冒険しながら、お城に閉じ込められたプリンセスを助けに行きます。子どもたちの一生懸命頑張る姿を見ることができ、それによって子どもたちも学生も笑顔あふれる企画です。



スポーツバイキング

昨年は、牛乳パック、新聞紙などの身の回りにあるものを利用して、オリジナルのおもちゃをつくり、そのおもちゃを使って実際に遊ぶことができる企画となりました。また、遊べる大きなおもちゃのスペースを用意し、段ボールで作ったおもちゃで自由に遊ぶことができる企画になりました。おもちゃ工房では子供とスタッフが一對一でおもちゃを作り、一緒に遊ぶこともできます。子供との会話を楽しんだり、直接コミュニケーションをとったりする機会が多くある点がこの企画の魅力です。当日には、子供との関わりの中でたくさんの笑顔を見ることができました。



さいえんすラボ

本企画では、子ども達が科学に興味を持つきっかけとなるような実験を行っています。昨年は、タイムトラベラーとなった子ども達が、実験を行いながら三つの時代を旅しました。大航海時代ではスライムを、侍の時代ではペットボトルの中に雲を作りました。また、恐竜の時代では、現代に戻るために必死で空気砲をたたき子ども達の姿が印象的でした。実験だけでなく装飾にも力を入れており、昨年は迫力満点な恐竜の絵が男の子に人気でした。



わくワーク☆キッズタウン ～お仕事体験～



【ハンバーガー屋さんブース】

本企画では、昨年度はハンバーガー屋さんのお仕事をしました。子どもたちはハンバーガー屋さんになりきって、注文を聞いたり、ポテトを揚げたり、ハンバーガーを作ったりしてお仕事を体験しました。ハンバーガーの具材をパンズの上にきれいに乗せていくのに苦戦しながらも、子どもたちがそれぞれ工夫をしながら真剣な表情でお仕事を体験している姿がみられました。



【お医者さんブース】

昨年はお医者さん体験をテーマに、普段は触れることのない聴診器やトレーニング用のAEDなどに触れてもらうことで医療を身近に感じてもらいました。子供たち自身がロールプレイすることで医療に対する恐怖心を減少させるきっかけになったのではないかと思います。白衣姿の子供たちが大人でも知らないことを楽しそうに学ぶ姿は頼もしくかつよかったです。

フェイスペインティング

子どもたちや希望される保護者の方の顔・爪にスマイルフェスティバルイメージキャラクターの「スマレンジャー」をペイントする企画です。昨年はペイント中に子供たちと学校や習い事の話、今から回るスマフェスの企画の話などたくさんお話しして、スタッフ一同も子供たちとともに楽しい時間を過ごすことができました。スマフェスの思い出に彩りを添えられる素敵な企画です。



【市内電車利用】

富山駅から約 15 分

【バス利用】

富山駅前 富山地铁・路線バス
「富山大学経由」(3 番乗り場) 乗車約 20 分
「富山大学前」バス停下車すぐ

【タクシー利用】

富山駅から約 15 分
富山きととき空港から約 15 分

【車利用】

北陸自動車道「富山西 IC」から約 15 分、
「富山 IC」から約 20 分
(ご来学にあたっては、なるべく公共の
交通機関等をご利用ください。)

周辺地図・交通アクセス



問い合わせ先：富山大学 人社系学務課 人間発達科学部担当
TEL. 076-445-6259 FAX. 076-445-6357
E-mail : kyominfo@adm.u-toyama.ac.jp